

大阪労連女性部ニュース NO. 8

みんなの力で、要求実現！



2012年6月11日

発行 〒530-0034 大阪市北区錦町2-2 国労会館1F
TEL 06-6353-6421 FAX 06-6353-6420

商工労働部・男女共同参画・府民協働課との交渉

5月14日（月）、WTCへ移転した商工労働部と男女共同参画・府民協働課との交渉が行われました。ビル風の音が会議室に響くなか9名の参加で、菜の花行動での要望書に沿って互いに意見を出し合いました。

● 大阪府商工労働部交渉

まず、昨年と違って細かく調査結果を出してもらったことにお礼をいい。商工労働部は、大阪が失業率ワースト1になったことがきっかけで、大阪における雇用の現状を具体的に把握し分析する目的で調査をはじめ、（企業と求職者の）雇用要因などのミスマッチをまとめた「大阪における雇用実態把握調査（最終取りまとめ結果）」について説明をうけた。



女性部からは、調査結果のなかで、「若年層が転職を繰り返すのは、コミュニケーション不足や根気のなさだけでなく、労働環境が悪い場合もあると思うし、派遣労働や有期雇用などで期間が定められている労働者の数が増えているからではない」と指摘しました。せっかく就職しても離職する理由に「働く上で必要なものについて、全般的にやる気・根気・コミュニケーション能力」をあげる人が多いとし高校生の意識が低いとする調査で高校では、教師が必死で企業の求人募集を集めて就労活動をしているが、企業との求人要求の部分でギャップがありすぎる。

コミュニケーション能力や社会人基礎力の育成、やる気・根気のなさを教育や家庭のしつけに転嫁するのはおかしい。もっと労働者側にたった雇用実態調査を行ってほしいし、また商工労働部の企業向け講座のなかに、女性の権利・産休・育休での助成制度のこともいれてほしいと要望しました。

● 男女共同参画課・府民協働課交渉

「男女共同参画審議会」「大阪府男女共同推進連絡会」などで、昨年よりは女性の審議委員は増えつつある。男女共同参画DVD指導者用を作成して企業などで活用してもらうよう市役所などに配布している。予算が削られる中、女性基金を切り崩しての運営人間的にはかつかつで少ないぐらい。自分の名刺は自腹とのこと。

女性部からは、橋下さんも去った今、予算がうまくいくよう方向転換していってもらえるよう発言。大阪府は地域と連携して男女共同参画を進めるといっているが、大阪市がクレオをはじめ男女共同参画課を潰すような施策をとっているのに対してはどう考えてますか？と質問。総合評価制度では、

男女平等になっているか？住民側にたつての評価チェックになっているかをきちんと中味チェックを行い、府に意見を言ってもらいたい。

♪参加者からの感想では、『男女平等の観点がない、これからもしっかり活動して後退させないようにしなければ。あれだけの調査をしてるのに、生かす方向があるのか疑問に思った。非正規率が高い大阪で、雇用は正規が当たり前という観点で仕事をして欲しい。』

～2012年全労連女性部単産・地方組織交流集会 報告～



5月26日、27日に東京ラパスホールにて全労連女性部単産・地方組織交流集会が開催されました。大阪労連からは佐藤と阿野が参加しました。柴田女性部長の挨拶で始まり、「ジェンダー平等を中心課題に据えたディーセントワーク実現に向けて」をテーマにし、今野久子弁護士と全労連の小田川事務局長、全労連女性部副部長の水谷文さんの3氏によるシンポジウムがありました。

印象に残ったのは今野弁護士（もう70代だそうですが）の経験による助言のいくつかでした。「1985年に均等法が施行

され、女性労働者の地位向上がすすむと思っていた。しかし現在、女性労働者は増えたが、賃金は男性社員と比較して正社員で7割程度、非正規では6割以下でしかない」「世界では男性の労働時間を短縮し、全体の平等に向けて動いているが、日本では男性の働き方に女性を合わせる方のため、子育てや家事の負担が女性に重きを置かれる中、正社員として働き続けることが難しく一旦辞めて子育てに専念し、手が離れたらパートなどの短時間勤務での仕事という形態は変わらず、低賃金におさえられている」「死ぬほど働いている人と、働きたいのに働けない人の矛盾がある。現実を反映した運動にするために女性が前に出て発言することが大切」など。日本の現状が少しも良くなっていないことがわかりましたが、北欧などの政治に未来を感じました。ただ、明るい話として原発反対の運動の中で若いお母さんたちが声を上げていることや、一人で闘わずにリタイアした元気な先輩たちを味方にした動きも広がっているということを知りて女性の強さを感じることもできました。

全国からの発言のなかで、大阪労連からは菜の花行動でのマスコミ要請や商工労働部への要請活動のこと、橋下市長の暴挙について話すと、全国から怒りの賛同を得ることができました。

2日目は、柴田女性部長が出席した「国際民婦連大会」の報告の後、3班に分かれて分散会でした。

分散会の中では、さらに全国の女性たちの状況についていろんな話を聞くことができましたが、中でも教育の問題で「今の学校で憲法や労働、権利について学習しているのか？」という質問に対して全教の方から「学習指導要領が改悪され、教師は課題をやることにきゅうきゅうとし、競争ばかりの中、教えたくてもなかなか教えられないし、若い先生たちへの指導についても全



然しないどころかいじめが横行している。足の引っ張り合いになっている」などとてもひどい状況になっていること。そんな中でも私学の先生がいろんなつてで講師を探して生徒たちに労働や権利についての学習会をした話など、知恵を出し、工夫をしておられることも聞いたことがとても良かったです。労働組合全体が縮小し、さらに橋下市長のようなファシズム的なやり方で労働者が分断される中で、女性部を存続することもどんどん厳しくなっていますが、やっぱりなくなってしまってもっと意見を出せなくなるので、細々とでも続けることが大切だということでまとめとなりました。私自身、なかなか組合活動、女性部活動について満足な活動ができず、広げることもできなくて悩んでいますが、全国の仲間の状況を知ることで自分だけじゃないし、もっと困難な中みんなが頑張っていることを知って力をもらったように思います。(報告者・阿野)

大阪市の「改革プラン素案」に反対96.2%

大阪市は8日、「大阪市政改革プラン素案」についてのパブリックコメントの受付数が19854件、意見総数で28399件に上がったと最終集計結果を公表しました。うち96.2%が反対意見だった。意見総数は、過去最多数で市民の関心のつよいことがわかりました。

橋下市長は、「真摯に受け止めて、しっかり議論していきたい」と述べていますが、男女共同参画センタークレオ5館廃止をはじめ、市民サービス切り捨ての改革に“NO!”の声をもっと広げ、「改革プラン」撤回に追い込みましょう。



お知らせ

大阪労連女性部労働局交渉への参加要請

- ◆ 日 時 6月14日(木) 10時00分～11時00分
(集 合 9:40 合同庁舎2号館ロビー)
- ◆ 場 所 大阪合同庁舎2号館B会議室
(地下鉄谷町線「谷町4丁目」⑤番出口)

※各組織からの参加をお願いいたします。